

# 秋山の自然と人間

## ～ その歴史と文化を考える ～

昨年度から、京都にある総合地球環境学研究所のプロジェクトの一環として、五年計画で栄村を調査地とする研究が始まりました。このたび2年目を終えるにあたり、調査成果の報告を行います。地理学・生物学・民俗学・歴史学などさまざまな分野の研究者が、秋山をはじめとする栄村の自然と人間生活との関係について語ります。

日時： 2008年3月2日(日) 午前9時半～午後4時半

会場： 秋山郷総合センター「とねんぼ」

- 9：30～9：45 調査プロジェクトの進行状況について  
(湯本貴和<プロジェクトリーダー>/総合地球環境学研究所・生物学)
- 9：50～10：20 「中津川中・下流域の地形はどのように発達したか」  
(長谷川裕彦/明治大学・自然地理学)
- 10：25～10：55 「長野県秋山地域における植物分布と人間による利用」  
(辻野亮/総合地球環境学研究所・生物学)
- < 休憩 >
- 11：05～11：35 「栄村にブナが多いわけ」  
(小山泰弘/長野県林業総合センター・林学)
- 11：40～12：10 「小赤沢集落周辺の山地利用の現状についてー旧共有地の事例から」  
(井上卓哉/富士市立博物館・民俗学)
- < 昼食・休憩 >
- 13：20～13：50 「信州秋山郷における生活様式の変容」  
(関戸明子/群馬大学・人文地理学)
- 13：55～14：25 「信濃の鷹と中世の鷹狩文化」  
(中澤克昭/長野工業高等専門学校・歴史学)
- < 休憩 >
- 14：35～15：05 「巢鷹献上と巢守の仕事」 (荒垣恒明/中央大学・歴史学)
- 15：10～15：40 「激変した秋山ー18世紀後半の社会と自然の変化」  
(白水智/中央学院大学・歴史学)
- < 休憩 >
- 15：50～16：20 総括・質疑